COPA DO MUNDO 2006

営業イベント等も続いていて、samba 真っ盛りの「夏」ですね。そして浅草サンバカーニバルもすぐ目の前！僕は今年も参加できませんが、ブラジルから健闘を祈り続けています！！！

さて、今回のテーマはＷ杯 2006 です。サッカーと自分、サッカーと samba、異国の地にいる自分、そして目の前に映るブラジル人達の模様など、サッカー王国ブラジルで感じたことをお話します。

○○○　サッカー、サッカー、サッカーだったあの頃　○○○

自分自身のことを振り返ると、少年時代、僕はサッカーしか取得のない人間で、サッカーボールと一緒に寝るほどサッカーが大好きでした。プロサッカー選手も目指していましたし、ブラジルは憧れの対象として映っていました。サッカー留学を本気で考えていた時期もあります。Ｗ杯に出場する夢だって何度となく見ました。しかし、誰よりも練習し、誰よりも努力したつもりなのですが、身体能力、技術、フィールドセンスともにアニメの「大空翼」のような才能に恵まれなかったようです。18 歳の秋頃、サッカーから離れ、大学の専攻希望もスポーツ科学から人間科学、心理学へと変え、その後、新しい人生を歩むことにしました。

先日の中田英寿の引退発表、インターネットで知ることになり、その場でおろおろと泣いてしまいました。彼の人一倍の努力と闘争心、培った技術、成し遂げた盛挙は、僕が経験してきたことなどとは比べようのない大きいものですが、僕もサッカーから離れる決心をした日、グラウンドでしばらく呆然と立ち尽くし、涙をこぼしました。世間からすれば、米粒のようなちっぽけなことですが、１人のサッカー青年にとっては人生の中での大きな瞬間。それを、なんだか思い出してしまったからです。

今は夢だったブラジルに「違う形」で来ることができ、生活の場を置くことができています。もちろん、サッカーのことしか考えていなかったあの頃では想像もつかなかったことです。ただ、布石的なエピソードがないこともありません。高校時代、部活の恩師が samba を練習中にステレオでよく流していたんです。彼が言うにはブラジル人のサッカーには「リズム」が流れていて、いわゆるジンガ（ginga）ってやつを言いたかったのだろうけれど、それを刷込みたかったんですかね…。

○○○　サッカー王国ブラジル　○○○

さて、ブラジルでのＷ杯体験の話です。ご存知の通りブラジルはサッカー王国と同義です。サッカーが強いというだけでなく、一般人にまでサッカーが愛されていますので、Ｗ杯ともなると街中の雰囲気が変わります。みんな応援のためにＴシャツ、アクセサリーなどブラジルカラー（緑と黄）を身に付けますし、一般のお店、デパート、レストラン、バー、更に銀行や郵便局にまで装飾がなされます。大きな音を出すラッパ、花火、爆竹のようなものもよく売れます。点が入ったり、勝ったときのためです。住宅地では住民がお金を出し合って、路上や壁、電信柱に巨大なペイントをしたり、旗を吊るしたりします。まるで、それ自体が競争にも見えます。日本人的には許可もとらずに公共物にペンキを塗りたぐる光景は衝撃的ですね。でも、これがブラジルです。

ブラジル代表初戦（対クロアチア）は、São Paulo の中心街に造られたＷ杯観戦用の巨大スクリーン特設会場まで行ってきました。周囲から「Tá louco!!!（狂ってるよぉー！）」とか言われつつ、せっかくブラジルでＷ杯を体感するのだから！とドキドキしながら足を運びました。日本でいうなら国立競技場の大スクリーンで応援するようなサッカークレイジーのための場所で、しかも全員ブラジル人です。目を真っ赤にして、スクリーンに釘付けになっている人もいれば、ああだこうだと解説を繰り返している人、キャーキャー騒いでいる女の子、更にはブラジル国旗柄の衣をまとった聖人のような人も…。基本的に人が多すぎてスクリーンがほとんど見えないので、周囲の反応を見て、試合の流れを把握していた感じです。点が入ったときは地鳴りのような歓喜が巻き起こると同時に、花火や爆竹の音で辺りが騒々しく沸き立ちました。なかなかの体験でしたが、感想としては「もういい…」の一言に尽きますね。だって激しいんですもん。

○○○　サッカーと SAMBA　○○○

ブラジル対オーストラリアの試合は Rio de janeiro 滞在中の時で、せっかくなので carnaval 2006 優勝の Vila Isabel の quadra で観戦することにしました。またまた周囲から「頭おかしいねっ」なんて言われつつ（基本的に僕の日常生活の中に samba 関係者はいませんので…）、久しぶりに bateria の音が聞ける喜びでウキウキしながら行ってきました。quadra はやはり緑と黄に装飾され、ステージには大スクリーンが設置されていました。来ている人のほとんどが comunidade の人間で、bateria が音を出し始めると、passista のおねーちゃん達がお揃いの escola ユニフォーム姿で登場。サッカーの応援をするために samba をしているのか、samba をしたいがためにサッカーを種にしているのかよくわかりませんね…。

前半が引き分けに終わり、ハーフタイムで再び bateria が叩き始めました。さて、こんな「応援 samba」な日でも M.S./P.B.がしっかり登場。M.S.はブラジルシャツ着ているし、雰囲気もシーズン中の ensaio と違ってカジュアル。事前に挨拶はしていたので、パフォーマンスの途中、pavilhão（escola de samba の旗）を向けてくれましたし、beijo も求めて来てくれました。ですが、「嬉しいな～♪」という気持ちと同時に、「やっっっぱい！」という考えがよぎりました。そしてそれが現実に…。2 人が呼んでいるじゃあないですか。もちろん、「Não！Não！」のサインを出しました。それでも、呼び続けているので、再度「Não！Não！」の合図を…。だって、他の escola の P.B.と踊るのは僕の所属している Império de Casa Verde では NG です。僕の P.B.Katia の元 M.S.はそれで escola を辞めさせられていますから。そんな事情と全く関係のない 2 人は一向に諦めません。わずか 5 秒間の中で大葛藤を強いられた果てに、これ以上断るのは失礼と思い、結果的にやってしましました。ここは São Paulo から 400km も離れた所だし、メディアもなし、そして僕もブラジルシャツにジーンズだったので「遊び」の延長と判断したのもあります。とにかく、細かいことは置いておいて、素晴らしい体験ができたのは確かです。Rio de Janeiro 優勝 escola の P.B.と踊れるなんて、まったく想像もしていませんでしたから。

○○○　JAPÃO OU BRASIL ???　○○○

ここまではブラジル応援の模様でしたが、日本×ブラジル戦に関しては本当に複雑でした。予選を通過し、同じグループになった日から何度となく「お前はどっちの応援なんだっ!?」と聞かれましたが、単純に答えられることではありません。正直なところどっちにも勝ってほしいのだから。それで、考えついた決め台詞が『日本は mãe（母親）で、ブラジルは namorada（恋人）だ』っていう表現。これがブラジル人にはばっちり受けるんですよぉ―。対戦前日に、ニュース番組の W 杯コーナーで「TSUBASA はどっちを応援!?」みたいな特集を組まれちゃったんだけど、案の定このフレーズだけは強調されて放映されていました。ちなみに、ブラジルでは恋人以上に母親が大切にされる風潮があります。

で、肝心の本戦ですが、職場の学校で同僚と二人で見るという寂しいものでした。仕事が残っていて外に出られなかったのです。結果的にその方がよかったのかもしれません。日本の先制点を静かに喜び、その後の逆転の始終を静かに悲しみました。日本の敗退が決まった時点ですぐに帰宅しましたが、途中の道で、知っている日本語（「ありがとぉ～！さよならぁ～！」）を叫んでいる連中を見て、心底腹が立ってきたし、ブラジルなんて最低な野郎の集まりだという考えで頭がいっぱいになりました。この地が消えてなくなってしまえ！とさえ思ってしまい、これではいかんいかんと冷静になるようにしていました。要は辱められた気がしたのかもしれません。でも、よくないですよね…、こういう気持ちが出ちゃうのは。とにかく、その後は思いっきりブラジルを応援できるスッキリした状態になりましたので、実のところ安心もしていました。ガーナ戦は日本語学校の子供達と、フランス戦は父兄の方々と観戦をし、大いに盛り上がりました。ブラジルが負けたときは日本が負けた時よりも悲しくなり、他のブラジル人と共に泣きました。このシーズンに何度泣いたんでしょう…。